

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-201876

(P2004-201876A)

(43) 公開日 平成16年7月22日(2004.7.22)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 B 77/16

A 4 7 B 77/04

A 4 7 B 88/00

F I

A 4 7 B 77/16

A 4 7 B 77/04

A 4 7 B 88/00

テーマコード (参考)

3 B 0 6 0

Z

Q

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号

特願2002-373555 (P2002-373555)

(22) 出願日

平成14年12月25日 (2002.12.25)

(71) 出願人 000108661

タカラスタンダード株式会社

大阪府大阪市城東区鳴野東1丁目2番1号

(74) 代理人 100061664

弁理士 鈴木 ハルミ

(72) 発明者 菅原 晋

大阪府大阪市城東区鳴野東1丁目2番1号

タカラスタンダード株式会社内

(72) 発明者 児玉 英男

大阪府大阪市城東区鳴野東1丁目2番1号

タカラスタンダード株式会社内

Fターム(参考) 3B060 EC02 RA02

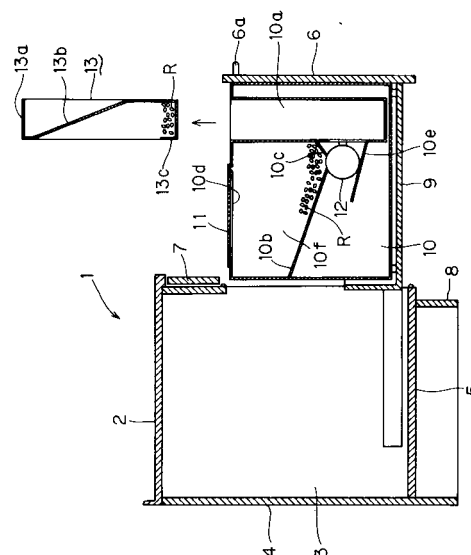
(54) 【発明の名称】 厨房家具用キャビネット

(57) 【要約】

【課題】 厨房家具用キャビネットの引出し内に米びつを体裁良く、かつ、他の物の収納の妨げにならないように設置する。また、米の取り出し操作が容易に行えるようにする。

【解決手段】 引出し式の開閉扉6を有する厨房家具用キャビネット1の前記開閉扉6の後側の引出し本体9上に、薄型の米びつ10を設置し、この米びつ10の計量機構部12を操作する操作鉤14とトレイ13cの引出し部13を、その上面あるいは開閉扉の前面に設けることとした。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

略箱形で前面に引出し式の開閉扉を備えたコンロ台や流し台などの厨房家具用キャビネットにおいて、

上記開閉扉の内側の引出し本体上に、米を収納保管する収納部と、この収納部の下方に連続し、規定量の米を計量落下させる計量機構部と、計量機構部から落下した米を受けるトレイとを具備した米びつが一体的に取り付けられ、かつ、この米びつの上面には、計量機構部の操作釦が設けられると共に、米びつの下端寄りに装填されるトレイを挿脱する引出し部が上下方向に出没可能に設けられていることを特徴とする厨房家具用キャビネット。

【請求項 2】

略箱形で前面に引出し式の開閉扉を備えたコンロ台や流し台などの厨房家具用キャビネットにおいて、

上記開閉扉の内側の引出し本体上に、米を収納保管する収納部と、この収納部の下方に連続し、規定量の米を計量落下させる計量機構部と、計量機構部から落下した米を受けるトレイとを具備した米びつが一体的に取り付けられ、開閉扉の前面に、前記計量機構部を操作する操作釦が設けられると共に、前記トレイを挿脱可能な開口が設けられたことを特徴とする厨房家具用キャビネット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、米の収納機能を備えたコンロ台や流し台などの厨房家具用キャビネットに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、このような引出し式の開閉扉内に米びつを一体的に組み込んだ厨房家具用キャビネットは見られなかった。

【0003】

そのため、利用者の側において、適宜、図 7 や図 8 に示すような米びつ 22、23 を、開閉扉 20 の後側の引出し本体 21 内に収納したり、あるいは、図 9 に示すようなタッパと称される蓋 24a 付きの収納容器 24 内に米を入れ、これを引出し本体 21 内に収納したりしていた。

【0004】

図 7 に示した米びつ 22 は、一般載置形のものであり、前面上部に開閉式の米の投入口 22a が設けられると共に、中程に計量操作作用の複数の操作レバー 22b が設けられ、下部に計量された米を取り出すトレイ 22c が挿脱可能に設けられたものであり、米を取り出すには、必要な量に対応した操作レバー 22b を押し下げ、米をトレイ 2c に落下させた後、このトレイ 22c を米びつ 22 から前方に引出し、取り出すようにしていた。

【0005】

また、図 8 に示した米びつ 23 は、上面に米の投入口 23a と、計量用の操作釦 23b が設けられた薄型のものであり、米は米びつ 23 の側面の下端寄りに設けられたトレイ 23c を米びつ 23 の側方に引き出すことにより、行うようになっている。

【0006】

さらに、図 9 に示したタッパと称される収納容器 24 を米の収納に用いた場合、米を取り出すには、蓋 24a を開けた後、収納された米を升などを用いて掬い取るようにしていた。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

上述した従来の厨房家具用キャビネットのうち、図 7 や図 8 に示すような米びつを収納したものは、米びつの前方あるいは側方に操作作用の空間が必要なため、ここに物を置くことができず、引出し内の収納量が減少するという問題点があった。

10

20

30

40

50

【0008】

また、図9に示したタッパと称される収納容器を用いた場合は、米を取り出す際、一々、収納容器の蓋を開け、升などを用いてこの容器内に収納された米を掬い取らなくてはならず、煩わしく、作業も行い難いという問題点があった。また、このタッパの上側には物が置けないので、収納スペースの無駄が多く、キャビネット内の収納量が少なくなるという問題点もあった。

【0009】

さらにまた、上述したものは何れも米を取り出す際、まずキャビネットの開閉扉を開放しなくてはならず、開閉扉を閉めたまま、直接、米を取り出すことができず、この面からも操作性が悪いという問題点も有していた。

10

【0010】

本発明は、上記従来の厨房家具用キャビネットが有していた問題点の解決を課題とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するために、本発明のうち、請求項1記載の発明は、略箱形で前面に引出し式の開閉扉を備えたコンロ台や流し台などの厨房家具用キャビネットにおいて、上記開閉扉の内側の引出し本体上に、米を収納保管する収納部と、この収納部の下方に連続し、規定量の米を計量落下させる計量機構部と、計量機構部から落下した米を受けるトレイとを具備した米びつを一体的に取り付けた。そして、この米びつを、上面に計量機構部の操作鉤が設けられると共に、米びつの下端寄りに装填されるトレイを挿脱する引出し部が上下方向に出没可能に設けられたものとしたことを特徴とする。

20

【0012】

請求項2記載の発明は、略箱形で前面に引出し式の開閉扉を備えたコンロ台や流し台などの厨房家具用キャビネットにおいて、上記開閉扉の内側の引出し本体上に、米を収納保管する収納部と、この収納部の下方に連続し、規定量の米を計量落下させる計量機構部と、計量機構部から落下した米を受けるトレイとを具備した米びつを一体的に取り付け、開閉扉の前面に、前記計量機構部を操作する操作鉤を設けると共に、前記トレイを挿脱可能な開口を設けたことを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態】

30

以下、本発明を図示した実施の形態に基づき詳細に説明する。

【0014】

図1は、本発明に係る厨房家具用キャビネットの実施形態を示した要部簡略正面図、図2は、図1のA-A線の断面図である。

【0015】

図示したように、このキャビネット1は、ワークトップと称せられる天板2と、左右両側の側板3、背面板4、および底板5とで前面（図2において右面）が開放された箱形に形成されたものであり、前面の開放部分には、引出し式に前方に引き出される開閉扉6が設けられている。この開閉扉6は、図4に示すように、上面が開放された引出し本体9の前面板を兼ねるものであり、その前面上部には、開閉操作の把手6aが設けられている。

40

【0016】

なお、図において符号8は、キャビネット1の下端の蹴込みとなる台輪部、7は、開閉扉6の上側前面を塞いだ幕板を示す。

【0017】

ここにおいて本発明の厨房家具用キャビネット1では、開閉扉6の裏面に一体に設けられた引出し本体9の片側に、薄型で奥行きが引出し本体9の奥行き寸法とほぼ等しい米びつ10を一体的に取り付けている。この米びつ10は、前側（図2や図3において右側）の上下方向に空洞部10aが設けられると共に、内部の中程に設けられた傾斜案内板10b、10cで上下に区分されたものであり、上面に設けられた投入口10dから投入された米Rは、この傾斜案内板10b、10cの上側にストックされるようになっている。また

50

、傾斜案内板 10b, 10c の下側には、この傾斜案内板 10b, 10c を滑り落ちた米 R を計量し、その下側のシュート 10e に排出する計量機構部 12 が設けられ、この計量機構部 12 は、米びつ 10 の上面に設けられた操作釦 14 で操作されるようになっている。また、米びつ 10 の前側に設けられた空洞部 10a には、図 3 に示すように、シュート 10e の下端が臨むと共に、下端にトレイ 13c が設けられた縦長の引出し部 13 が、挿脱可能に装填されるようになっている。なお、この引出し部 13 は、角筒形で少なくともその一側が開放され、この開放された下側部分を容器状のトレイ 13c としたものであり、上端には手かがりとなるスリット状の開口 13a が設けられている。また、その内部は、傾斜した仕切り部 13b で上下に区分され、引出し部 13 が空洞部 10a に装填された際、トレイ 13c が外部に露呈しないようにしている。なお、この装填時、引出し部 13 の開放された側（図 3 において左側）が、計量機構部 12 が設けられた側に面し、トレイ 13c はシュート 10e の下端より下方に位置している。 10

【0018】

なお、図 2～4 において、符号 11 は、米の投入口 10d を塞いだ蓋を示す。

【0019】

本発明の厨房家具用キャビネット 1 は、上記の構成を有している。

【0020】

次に、このキャビネット 1 に一体的に組み込まれた米びつ 10 の使用法について述べると、まず、米 R を収納するには、開閉扉 6 をキャビネット 1 の前方（図 3 において右方）に引き出し、現れた米びつ本体 10 の上面に設けられた投入口 10d の蓋 11 を開放し、この投入口 10d から米 R を内部に投入すれば良く、このことで米 R は、図 3 に示すように傾斜案内板 10b, 10c の上側の収納部 10f に入り、ここで収納保管される。そして、米 R の投入後は、投入口 10d の蓋 11 を閉じ、開閉扉 6 を閉めれば良い。 20

【0021】

次に、この米びつ 10 に収納された米 R を取り出すには、まず開閉扉 6 を前方（図 3 において右方）に引き出し、現れた米びつ 10 の上面に設けられた操作釦 14 を押せば、傾斜案内板 10b, 10c を滑り落ちて計量機構部 12 に投入された一定容積の米 R が、この計量機構部 12 から落下排出され、この落下排出された米 R は、シュート 10e を介して空洞部 10a 内に位置した引出し部 13 のトレイ 13c で受けられるようになっている。なお、一回の操作釦 14 の操作で排出される米 R の量は、規定の最少単位量に設定されている。従って、多量の米粒を必要とする場合は、操作釦 14 を必要な回数だけ操作すれば良い。 30

【0022】

このようにして、必要量の米 R の排出が完了すると、次に図 3 に矢印で示すように、引出し部 13 を米びつ 10 の上側に引き開ければ良く、このことで規定量の米 R が外部に取り出されるものである。

【0023】

そして、トレイ 13c から米 R を取り出した後、空になった引出し部 13 を空洞部 10a 内に挿入すれば、トレイ 13c はシュート 10e から排出された米 R を受けることができる待機位置にセットされるので、開閉扉 6 を閉めれば、作業が完了する。 40

【0024】

以上のように本発明の厨房家具用キャビネット 1 では、米びつ 10 の上面から必要な米 R の投入や取り出しが行えるので、その周囲に他の物を置いても作業の妨げにならない。よって、引出し本体 9 上に米びつ 10 を設置しても、その収納量の減少は、最小限に抑えられるものである。

【0025】

以上のようにして本発明の厨房家具用キャビネット 1 では、米 R の収納と取り出しが行えるものである。

【0026】

なお、上記の実施の形態では、引出し部 13 の下端にトレイ 13c を一体的に設けたもの 50

を例示したが、トレイ 13c は引出し部 13 と別体に形成され、引出し部 13 の下端に着脱可能に取り付けられるようになったものであっても良い。

【0027】

図 5 と図 6 は、本発明の他の実施形態を示した要部正面側と、その要部断面図である。図示したようにこの場合は、米びつ 10 が設けられた前側の開閉扉 6 に、計量機構部 12 を操作する操作釦 14 と、トレイ 13d を計量機構部 12 の下側に挿入するための開口 6b とを設けている。

【0028】

従って、上述した米びつ 10 に設けられていた空洞部 10a に相当するものではなく、米びつ 10 の上半部分は全て米 R の収納部 10f とされている。また、計量機構部 12 の下側のシュート 10e に相当するものも設けられていない。そして、この場合、トレイ 13d は上面が開放された細長い引出し状に形成されており、計量機構部 12 から落下した米 R は、その下側に設けられた開口 13e からこのトレイ 13d 内に落下するようになっている。その他の構成は、上記実施形態のものと全く同じである。

【0029】

この実施形態のキャビネット 1 に収納された米 R を取り出すには、まず開閉扉 6 の前面に設けられた操作釦 14 を押し込み、このことで、傾斜案内板 10b, 10c を滑り落ちて計量機構部 12 に投入された一定容積の米 R を計量機構部 12 から下方のトレイ 13d に落下させる。なお、この時、一回の操作で排出される米 R の量は一定なので、必要とする米 R の量が多い場合は、複数回、操作釦 14 を押すこととする。このことで、必要な量の米 R がトレイ 13d に落下して溜まるので、今度は、このトレイ 13d を開閉扉 6 の前面に設けられた開口 6b から前方に引き出せば良い。

【0030】

このようにして米 R が取り出され、空になったトレイ 13d を開口 6b から挿入すれば、このトレイ 13d は、計量機構部 12 から落下排出された米 R を受け取り可能な待機位置にセットされるものである。

【0031】

このように、この実施形態のキャビネット 1 では、開閉扉 6 を開閉しなくてもその前面から容易に必要な量の米 R を取り出すことができる。また、米びつ 10 の前部に引出し部 13 を挿脱するための空洞部 13a を設ける必要がないので、米 R の収納部 10f の容積を大きくでき、同じ外寸の場合、その収納容量を大きくすることができる。なお、この米びつ 10 への米 R の収納や補充は、前記実施形態のものと同様に、開閉扉 6 を開けた後、米びつ 10 の上面に設けられた投入口 10d から行うものである。

【0032】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明のうち、請求項 1 記載の発明では、キャビネットの引出し内に設置される米びつの上面に、計量機構部の操作釦とトレイの引出し部を設けたので、米の取り出し操作が全て米びつの上面から行える。よって、米びつの周囲に操作用の空間を要さず、収納スペースを最大限利用して米を体裁良く、キャビネット内に収納できるという効果がある。

【0033】

また、請求項 2 記載の発明は、キャビネット前面の開閉扉に、内装された米びつの計量機構部の操作釦と、この米びつのトレイを挿脱可能な開口を設けたので、米の取り出し操作が開閉扉を開放することなく、全てキャビネットの外側から行える。よって、上記請求項 1 記載の発明の効果に加え、一層の操作性の向上がはかれることとなる。また、トレイを上方引出しするもののよう、米びつの前側に空洞部を設ける必要がないので、米びつの内部に無駄なスペースがなくなり、米の収納容量が大きくなるという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明に係る厨房家具用キャビネットの実施形態の要部正面図である。

【図 2】 図 1 の A-A 線の断面図である。

10

20

30

40

50

【図 3】 図 1 に示したキャビネットの使用状態説明図である。

【図 4】 引出し部分の斜視図である。

【図 5】 他の実施形態の要部正面図である。

【図 6】 図 5 の B－B 線の断面図である。

【図 7】 従来例による使用状態説明図である。

【図 8】 他の従来例による使用状態説明図である。

【図 9】 さらに他の従来例を示した要部正面図である。

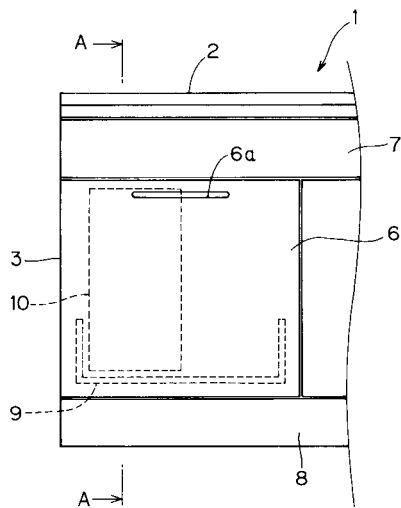
【符号の説明】

- 1 キャビネット
- 2 天板
- 3 側板
- 4 背板
- 5 底板
- 6 開閉扉
- 6 b 開口
- 9 引出し本体
- 10 米びつ
- 10 a 空洞部
- 10 f 米の収納部
- 12 計量機構部
- 13 引出し部
- 13 c, 13 d トレイ
- 14 操作釦

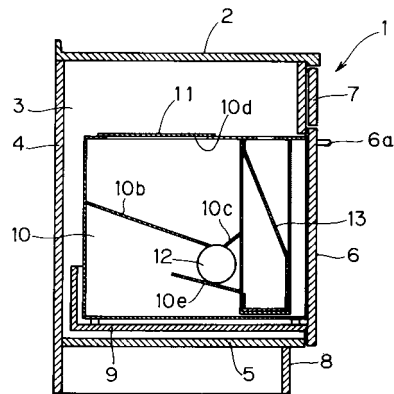
10

20

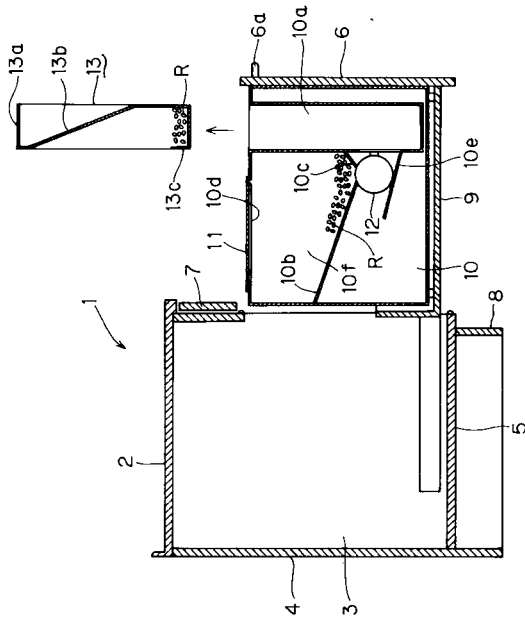
【図 1】



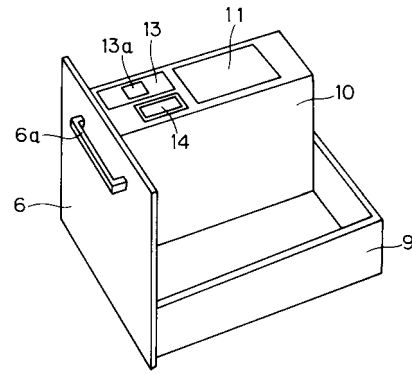
【図 2】



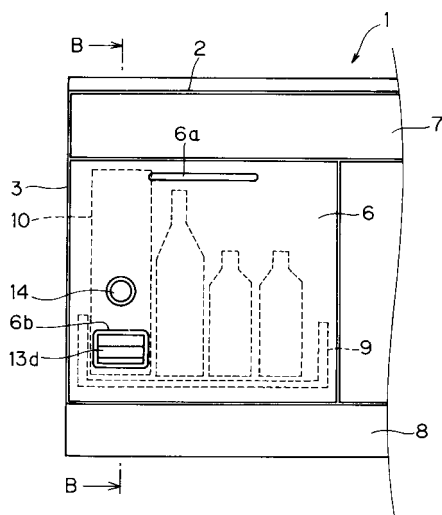
【図 3】



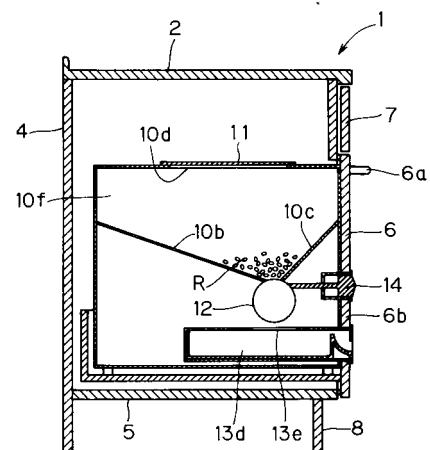
【図 4】



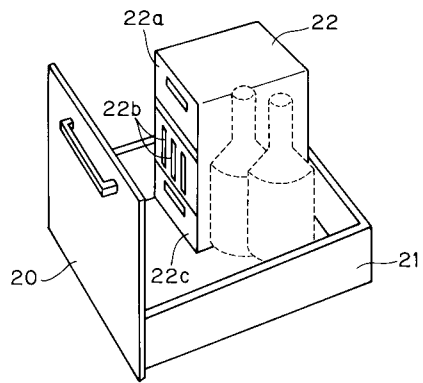
【図 5】



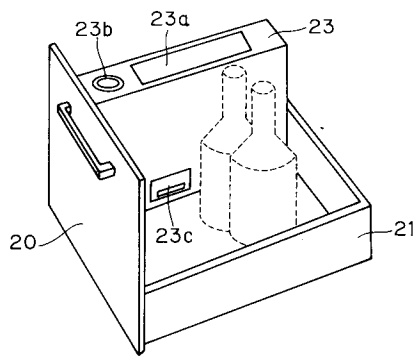
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

